

平成28年度第2回さがえ未来創成戦略に係る外部有識者会議の概要

平成29年1月12日（木）10:00～

寒河江市役所1階議会会議室

【出席者】委員23名 副市長以下事務局

【欠席者】4番 大沼尚史

有識者発言要旨

【健康診査について】

今後も受診率を高め、死亡率を減らす努力をしてもらいたい。

【高校生の市内定着について】

寒河江高校、寒河江工業高校の生徒を対象にした市内企業とのマッチングなど若者の市内定着に向けた事業や、それに向けた地域の雇用の創出を積極的に進めてはどうか。

【観光行政の視点について】

慈恩寺、グリバーなど地域の目玉はたくさんあるが、行くための経路が見えない、経路途中にある駅前などで何かあっても伝わっていないという、地域財産しか見えてなく、まわりが見えていない現状がある。観光に関しては周辺エリアへ視点を拡大し、街づくりと併せて行くべきだと思われる。足腰を強くするため市民レベルで情報を共有し、取り組む必要があるのではないかな。

【中心市街地の空洞化対策について】

中心市街地の空洞化対策として、学生のアート展開等空き店舗を使用した若者との交流など、若い人が商店街を利用することで活性化につながるのではないかな。

【6次産業化について】

住んでいる人が満足すること、観光に来てもらった人におもてなしをし地域の魅力を伝えていくこと、仕事を広げていくこと、これら3点について結び付けていく必要がある。農産物ブランド化推進事業、中心市街地商店街の活性化支援事業などあるが、ブランド化していくために事業を跨いだ支援をし、地元民はもちろん観光客向けに地元の店で地産地消をやっていくとか、中心商店街の人が集まりお土産品を作ってみるなどの取り組みを進めてはどうか。6次産業化のような感じで支援していけば、観光にもつながってくるので、地域が元気になる支援を求める。

【多子世帯保育支援事業について】

若い夫婦を見ていると2人目を作るのは大変であり、3人目なら本当に大変に見える。2人目から育てやすい環境づくりが必要ではないか。育児休暇の取得、環境づくり等目に見える大変さがあるのが実態なので2人目から対象にできないか検討して欲しい。

【宅地開発の推進について】

現在寒河江市では民間による宅地開発が多くみられる。行政の支援には限界があるだろうが、民間業者が土地・宅地開発をしたくなるような支援をしてはどうか。

【Uターンを促進するふるさと教育について】

Uターンの場合、仕事があるから帰ろうと思うのではなく、最初はふるさとに帰ろうと思ってから仕事を探すものであり帰りたいと思わせる動機づけが大事になってくるので、小さい頃からの「ふるさと教育」に力を注いでもいいのではないか。